

節目のある 生き方

定年は会社員にとって、やはり人生のひとくぎり。埼玉県川越市の松田昭さんからいただいたおたよりです。

—— 定年を迎える友人を囲んで、親しい仲間五人で酒をのんだ席でのこと。彼がめずらしくサラリーマン人生を振り返りました。大学を出ても三十歳までは周囲の人からいろいろなものをいただき育ててもらった。五十歳を過ぎるまではそれをもとにがんばって働いて、ふと気がついてみたらもう人生の先が見えているじゃないか。これからは、きつといただきたいものを少しでもお返しをする時期なのだと思ふのだが、さて何をしようか、というのです。聞きながら、高校時代の先生に教えてもらった「竹は節ありて風雪に強し」という言葉を思い出しました。酔って帰る夜道で、自分はどんな節目をつくってきただろうか、しばし反省もしました——。

考えてみれば、結婚や子どもの誕生などだけではなく、転勤や入院も人生の節目になるかもしれません。竹はきちんきちんと節があつてはじめて、大風も受け流し、まっすぐに伸びることができるとでしょう。しなやかで、つよい生き方には、竹のような節目が必要なかもしれませんね。

写真・市谷 健「ほら、ほらあ、透けてるでしょ」



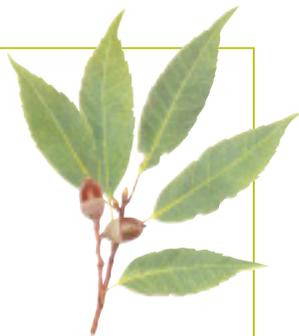
no.457

喜びのタネまき新聞

読む人の幸せを心に願って作る

株式会社タスキン社長

伊東美幸



葉っぱの アトリエから (5)

絵と文・葉っぱの画家
群馬直美

木々の葉っぱが色づき始め
いつの間にかくらんでいる実を発見して
幸せな気分になることがあります。
最近、見かけることが少なくなったカラスウリには
どんな秘密があるのでしょうか。

「カラスウリの宴」



10月20日 カラスウリ

10月20日 カラスウリ



秋のコンビネーション

連日の深夜の宴で寝不足がたた
ているのか、カラスウリの葉はひどく
ざらついています。純白の王妃(雌花)

の結実を見届けて、
色づいた葉は
散ってゆき
ます。

レトロな
電話機のコード
のようなつると、卵を
丸呑みした蛇のような実
のコンビネーションがともス
テキ。と思つていたら、英名
はジャパニーズ・スネーク・
ゴード。「蛇のヒョウタン」
とはうまいネーミングで
す。

一方、キカラスウリの
葉は、若い王子のように
なめらかで、
花はカラスウ
リの白い王妃
が太った感
じ。実が黄色
く熟すのでこの名前がついて
います。

結局いつもの道では、実と出
会えませんでした。あんなに
沢山の花が咲いていたのに…。

「ヒョウタンの実は見るとならない」と
聞きました。目が届かない場所の
実が大きくなるそうですが、カラス
ウリも見すぎではいけないのかも。

じつは、カラスウリはイチヨウと同
様、雌雄(メスとオス)異株で、片方
だけでは実がならない、と後からわ
かりました。

純白の王妃

夜開くのは、夢や夕
顔ばかりではありません。
ん。カラスウリも、夕刻を待つて真っ
白なレース状の花を開きます。
いつも通る踏み切り脇の家にある
コノテガシワの木に、カラスウリのつ
るがからみつき、一斉に怪しげな花
を咲かせていました。

すべてのものが寝静まった深夜、
「純白の王妃」の宴は、絶好調。そし
て、朝の訪れとともに眠りにつきま
す。

めったに見られぬ、闇夜の天使――
満開のカラスウリの花に、胸が高鳴り
ました。実りの季節になったら、ど
んなに沢山の実がなるんだろう。

11月25日 カラスウリ





百面相やつてみる？
（イサシ）
神奈川県川崎市 具志堅香代子

YOROIHNE
FASHION
GRAND PRIX

露出度600万デビュー！

イイ感じのあなた、
写真を送ってください。

マイファッション募集。

えい3代続いた大工さんでい！
愛媛県内子町 大木悦子



カンガルー親子
神奈川県相模原市 藤原大和

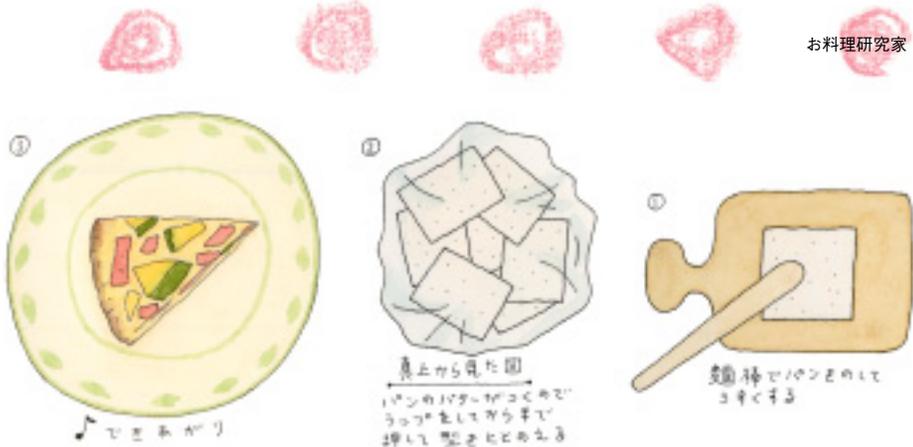
「出してみたら?」と友人や家族に勧められた我ながらうれしい写真、どこかに眠っていませんか? 本紙に発表して、600万人の読者にお披露目してください。ステキなわたしやかわいいペットが撮られたら送ってね。故郷のおばあちゃんも喜んでくれるかも。お待ちしております! (詳細は7ページ)

おやつ時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ



お料理研究家 こいけりえ



「ほくほくカボチャのパンキッシュ」

ポリウムいっぱい、愛情いっぱい

実はやがて地中に入り、新しいイモ状の根つことなり、地下の闇の中で次の世代を育てます。

フランスの郷土料理「キッシュ」の基本は、下地がパイ。でも、もっと手軽に作っちゃうなら、サンドイッチ用の食パンがイケてます。カボチャを入れて、アツアツ、ほくほくの美味しさで栄養、ポリウム共に満点。あつと言う間にペロリと平らげてしまします。

◎ 具を作る

カボチャ4分の1個(約300g)は、くし形切りにして5mmくらいにスライスする。耐熱皿にひろげて、ラップをして電子レンジに2分かける。ベーコン200gは2〜3cmに切る。フライパンにバター少々を入れ、レンジにかけたカボチャを入れて炒める。しんなりしてきたらベーコンを加えて炒め、塩、コショウ少々を入れる。

◎ アバレイユを作る

アバレイユとはフランス語で、卵と生クリームを混ぜ合わせた生地のこと。卵2個、生クリーム100ml、パルメザンチーズ40g、牛乳50ml、塩、コショウ、ナツメグ少々を順に入れて、よく混ぜ合わせる。

◎ 生地

麺棒で少し伸ばしたサンドイッチ用食パン7枚にバターまたはマーガリンをうすくぬり、タルト型(21cm)に並べる。ラップをかけて、上から手でタルト型に押し付けるようにして形をつける。

◎ 仕上げ

炒めた具(カボチャとベーコン)をパン生地の上に並べ、上からアバレイユを流し入れる。食パンは焦げやすいので、タルト型のふちの食パンの部分にアルミホイルを被せる。1200Wくらいのオーブントースターで約15〜20分焼く。表面に焼き色がついたら完成。アルミホイルははずして余熱でパンのふちにも焼き色をつける。冷めないうちに型から外す。カボチャの他にも、火を通したキノコやホウレンソウ、ソーセージなどお好みの具を入れ、オリジナルパンキッシュを。冷めても美味しく食べられます。



『木の葉の美術館』アート&エッセイ
170点の葉っぱの画集。
2冊目は『木の葉の宝石箱』。ともに
世界文化社/2100円(税込み)

群馬直美/群馬県高崎市生まれ。東京
都立川市在住の画家。作品はイン
ターネットでもご覧になれます。
<http://www.wood.jp/konoha/>



(上)上海空港に到着。(中)バスターミナルで切符と夕食用お菓子を購入。長距離バスの荷物入れに3台の車いすはギリギリ。(下)高速道路で一路南京へ。

卒業旅行で南京へ

高校時代からの友人同士。大学卒業後、社会に出ていく前に「記念に旅行はどう？」と近くの中国へ。行くなら車いすを運ぼうと急に事が決まった。

「まあ、少しは意義のあることをしたいな、と」

「面白そうだし、ね」

安東洪太君と藤原裕幸君(23歳/東京都)が上海に飛んだのは3月28日。フットワークの軽い若者だが、入社初日の前日までに帰国しなければならぬので、南京まで届けるのに5日間しかない。

なぜ南京に？

「戦争時に不幸な歴史のあった都市で、日中共に抵抗感が残る。だからこそ一度は行ってみたいと。それに世界の3大大河の1つ長江(揚子江)も見たかった」

NPO事務局は、以前、南京行ききの1台が旅行者の急病で運べなかった事もあり、素早く受け入れ体制を整えてくれた。在南京の日本人ボランティアが、真夜中過ぎに着く2人のためホテルへ連絡してくれ、先方訪問までサポート。札幌からの車いすを成田で受け取った2人は、いざ、出発！

南京の障害者連合会へ届ける

上海空港到着後、南京行き長距離バスに乗りこむ。運転手も英語は話せない。

高速道路は大型トラックの河。その流れに乗ってガンガン飛ばす夜行バス。車内は真つ暗で心細い。と、「成田からですか？」声の主は帰郷する医学生だった(35歳)。

「名古屋で2年の公費留学でした。今夜は寝ずに妻が待ってます」彼が停車時間やトイレの場所も教えてくれホッと安心。「南京は戦後、漢方医が集められたので病院や大学が多い」と聞く。

「中国の発展ぶりや日中の関係の深さを、



中央は子供用車いすをもつ所長代理の蔦さん。右はボランティアで在南京10年、漢方治療に来る日本人のサポートも仕事の兔澤さん。左が藤原君。



飛んでけ！ 車いす



ありがとうございます。
読者の方が運んでくれました。

◎個人旅行でマレーシアのジョホールバルへ

山口県防府市 村田 真美さん



アットホームな施設で、車椅子を受け取った女の子の嬉しそうな顔に、心癒されました。また機会がありましたら、是非協力したいと思います。お世話になりました。



受け取った黄さんの写真と感謝状がきた。会えなかったけど、元気だしてね！



藤原君(左)と安東君。南京の旧市街にある夫子廟の前で。「こっつて浅草みたいかな」



「喜びのタネまき新聞」449号の写真に興味深げに見る蔣さん。「いろいろな国に運んでいるんですね!」と感心。

◎家族旅行でインドネシアのバリ島へ

島根県松江市 伊藤靖子さん

449号の記事がきっかけで、車いすを届ける機会に恵まれました。不思議ですね、たった2ページの記事で、受け取った女の子(17歳)の人生が変わるかもしれない…なんて。私達の心にも喜びのタネがまかれました。本当に感謝しております。小学5年生の息子が宿題で書いた作文です。

(左)饅頭屋さん「出来たてだよ!野菜と肉とあん。どれにする?」(中央)八百屋さんは奥のほうでお昼寝中でした。(右)夫子廟で力車に乗る観光客。派手で土産物屋で買ったがえして、謹厳な孔子様が見たらきっとビックリ。



本紙449号でご紹介したNPO「飛んでけー車いす」の会(札幌市)。提供された車いすを整備し、途上国に旅行者の手荷物として運ぶ活動です。掲載後すぐ、提供したい、旅行で運びたい、会員になりたい等の問い合わせが会の事務局に届き、わざわざ訪ねて見えた方も!事務局長の吉田三千代さんが「今までにない反響」と喜んでくれました。実際に運んで下さった方の中から3人をご紹介します、読者の皆さまの温かいお気持ちに紙上を借りて感謝申し上げます。

「飛んでけー車いす」 伊藤寛人(10才) ひろると10才

春休みに、楽しみにしていたバリ島へ行きました。今回ぼくは、ボランテアで、関西空港からバリ島の身体しようがい者施設まで車いすを運びました。

バリ島では、日本の車いすみたいに性能の良い物はすごく高いそうで、ぼくが運んだ寝たきりの人用の車いすはほとんどないそうです。

日本で車いすをゆずる人、修理する人、連絡する人、運ぶ人たちが大切にしてきた車いすだから、みんなとても喜んでくれました。

ぼくは、母さんに教えてもらって、渡すときに「エンジョイ(楽しんで)」と言いました。

あの車いすで、楽しい事をたくさん見つけてくれるといいな。

改めて夜行バスの中で思いました」と2人。翌朝、ボランテアの方の案内で南京市身体障害者連合会へ。迎えてくれた所長代理の蔣さんに車いすと「喜びのタネまき新聞」を手渡すと、「温かい南京をつくりましょう」というスローガンにびったりだと喜んでくれた。昨年は千数百台の車いすが販売されたが、高価で一般市民には手が届かないという。

「ブレーキつきでこんなに軽くていいのは初めて」と目を細めた。

優しい人たち、ゆったりした古都

長江は南京をぐるりと囲み、海のように流れる。岸边は粘土質のすべる泥で、大河から轟々と吹く圧倒的な風が体を打ち、足をすくわれそうになる。

街に出ると、昔、中山先生(孫文)がドイツから帰って植えたというプラタナスの花が煙るように咲いていた。小さな食堂では、薬膳スープを飲む間に、居合わせた漢方医がただで脈をとり診てくれ、笑って、「南京の人はみな医者」(なわけないけど)でつかい表現は中国!。不幸な歴史の街なのに人は優しく緑豊かな古都。南京の人々のお陰で旅は色濃く鮮やかになった。僕の計算では車いす提供者から数えて最少10人の協力が必要。僕らはただ車いすを押しただけ。貴重な経験をありがとう。これからも運びますよ!



あの、あのね！

三重県鈴鹿市 佐野由美子

実家は花屋。でも花屋とは名ばかりで、母が亡き後は父ひとりなので、店には枯れかけの苗物ばかりが並んでいます。

ある日、実家の仏壇に売れ残りの菊を花瓶にさそうと思い、店先でパチンパチンと切っていると、じつとごちを見る女の子が。小学2年生くらいの子が、目が合うとさっと隠れ、戻ってきてはじつと見えています。なんだろ、花が欲しいのかな…？

「今日は。何かご用」と蚊の鳴くような声で、「あの、あのね！ここはお花屋さんなんだよ。お店の花、切ったらダメ。おじさんが困るから」

おじさんとは、うちの父。全く知らない大人に、これだけ言うのに、どれほど勇気がいったか。

「そうだね。ごめんね。教えてくれてありがとう」あやまりつつ、女の子への感謝で胸が一杯でした。私が嫁いであら実家に父ひとり。でも、こんなに素敵なガードマンさんがいたんですね。切ってしまった菊を仏壇に供えながら、もううちの花は切らないぞと、自然と笑みがこぼれました。

—— ちょっと、安心しちゃったの、おじさん。



にわか雨

熊本県宇城市 野村怜子

買物帰りに案の定、大粒の雨が降り出した。出がけに持ってきた傘をひろげ歩き出すと、私の横を大急ぎで若い男のひとが走り抜けていく。

「あ、もしもし、私の家はその角を曲がったらすぐです。玄関前に傘が2本立て掛けてあります。どうぞ、どちらでもさして行って下さい。返されなくともいいですから…」と大急ぎで話しかけた。その青年は軽くお辞儀をして走り去った。帰ったら、傘は1本になっていた。

翌日『有難うございました』と書かれたメモ用紙をそえて、傘はちゃんと玄関に返してあった。心嬉しい秋の一日でした。明日も明るい秋の日射しでしょう。

—— なんか小粋と思ったら俳句の怜子先生(7)感だわ！



白いブラウス

札幌市 土田英子

息子の誕生と共に結核になり、入退院を繰り返した私。家事も子育てもできないストレスに悩みましたが、息子はのびのび育ちました。

主人も仕事が忙しく転勤もありましたが、私の負担を減らそうと、小学生になった息子に買い物や洗濯を教え、息子もすすんで私の手伝いをしてくれました。息子は転勤で知らない土地に行く土地図を見ていっぱい探検し、笑顔でその話をして心配をかけないようにしていました。

息子が6年生の寒い冬の日、真っ赤にした手に赤いリボンの箱を持って、「ニコニコしながら、

「お母さん、誕生日おめでとう。僕ね、1年生の頃から、小遣いとかお年玉をためて、欲しがっていたブラウスを買ってあげたかったのー！」

誰かに買われなかと心配で時々見に行っていたそうです。胸があつくまりました。

あれから25年、息子は神戸におりますが、私は時々、白いブラウスを着て外出し、お茶しています。

—— いちばんうれしかったプレゼント。



ありがとう

福岡市 大楠薫

私が小学生の頃のことです。自転車に乗る練習をしている時、おばあちゃんはいつも、

「また、しようとな」と言っ、努力する私を褒めてくれました。とにかく鈍い私は、他の子の2倍も3倍も時間がかかってしまう。だから毎日練習すると、その度に「またしようとな。すごいな」と言ってくれました。けん玉を覚えた時も習字の練習をしている時も、そうでした。

あれから時は過ぎてても、鈍さは相変わらず。そんな時、おばあちゃんの声が聞こえてきます。

どんくさくて、不器用な私をけなすことなく、見守ってくれたおばあちゃん、ありがとう。おかげで壁にぶつくと、ここを「えい」とふんばることが出来ます。

—— 43歳になっても忘れな。

将棋の王手②

自分自身の立場を苦しいからとて、泣きごとばかり言っても決して良くならない。むしろ困難きたれと喜ぶことだ。そして、
 第一に、じっと考える。
 第二に、うろたえぬ。
 第三に、負けてはならぬと勇気をふるい起こす。
 人間生きている限り悩みは深いものです。自分だけではない。他の人も耐えている。耐えられないことはないはずだと
 悩みに打ち勝つことです。

鈴木清一



御上がり

茨城県石岡市 鈴木馨

息子は二人。もう中年で外に一家を成していません。私の日常着は息子達からの「御下がり」ならぬ「卸上がり」。妻が私のサイズに合わせズボンなどを縫い直してくれるのを愛用しています。

時折、一家は可愛い孫達を連れて帰省しますが、息子の嫁が「あら、うちのパパが穿いていたズボンですよね。おじいちゃんによく似合いますわ」と、懐かしそうな眼差しで見つめたことがあります。

色々な思い出がたまっているのでしょう。だから「御上がり」。もったいなくて「お古」などと言ったり思ったりはできません。いつまでも大切に愛用していきたいと思います。

高齡の私は冗談めかせば人間の「お古」。そのおじいちゃんから「これからもよろしくね」
 ——なんのなんの、リフォームすれば新品同様。

息子夫婦、孫と従兄弟の親せき一同お召し列車。
 ミニSL、まあだ？ もう出発するよ！



群馬県安中市 鈴木方子

あなたのお便りや写真をお寄せください

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。

どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先

〒163-0232 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
 新宿住友ビル内郵便局 私書箱 第47号

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室

電話 03(5909)6703

e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp

●2ページの群馬直美さんの連絡先は

〒190-0013東京都立川市富士見町2-32-27 石田倉庫No.3 2F

●4-5ページの「飛んでけ！車いす」の会事務局

〒060-0005 北海道札幌市中央区北5条西6丁目札通ビル2F

TEL・FAX:011-242-8171 e-mail:tondeke@bz01.plala.or.jp

ホームページのアドレスは

http://business4.plala.or.jp/tondeke/



あいぼう

秋田市 菅生壽子

今は亡き母が散歩に行った時、小さな体で思いつき大きな声を出して何かを訴えている子猫と目が合ってしまった、連れて来た我家の猫。責任持って育ててよとブツブツ言いながらも昔からのオマジナイ、すり鉢を猫にかぶせ、上に炭火をのせ、「長くこの家に住むように」と唱えつつ鉢の中から出し、家の中を連れ歩いた思い出…。

私の後追いをしていたそのミイタローも今年で27歳と6ヶ月。なんと長く一緒に居たもんだと思います。この頃は老衰も手伝い、自分では殆ど何も出来ず、私が動きを察知し抱っこして、トイレや水飲みをさせ目が離せません。夜はオムツをして一緒にベッドに入り、子守唄を歌ったりです。あいぼうよ、もう少しお母さんと一緒にいようね。

——うむ、オマジナイネ！



エコらんど 5

江戸時代から入会地(いりあいち/共同利用の土地や山)や、漁網などの共有財産を持ち、村ごとに暮らしを共有してきた私達の祖先。命の源である地球の環境を“待たなし”で守らねばならないという状況になった今、こうした共有の知恵から学ぶことも意味のある事です。カーシェアリングや自転車の共同利用などは、環境に優しく便利に暮らしを試み。ダスキンレントオールのお店では、イベント用品や旅行用品、介護用品などをお貸ししていますが、これも暮らしの共有。環境は今や「なぜ守るのか」から、「どのように守るのか」を考えねばならない時代に入っているとしたいと思います。



